

## 西東京市文化芸術に関するアンケート調査結果（速報版）

【市民】

## 調査の概要

## ■調査対象

令和4年10月1日時点の西東京市在住の18歳以上の市民

## ■実施期間

令和4年10月14日（金）～11月30日（水）

## ■調査項目

- ① 回答者自身について
- ② 文化芸術の鑑賞・体験について
- ③ 文化的な活動について
- ④ 回答者の子どもの文化芸術体験について
- ⑤ 西東京市の文化的な環境について
- ⑥ 西東京市のまちのイメージについて

## ■回収状況

配付数	回答数	回収率
1,500件	583件 (郵送)389件(WEB)194件	38.9%

## 主な調査結果

## ■① 回答者自身について

## 文化芸術の鑑賞・体験や活動に関心を持つ人は約8割です

文化芸術に関心のある人は82.5%（前回80.3%）となっています。（問7）

## 文化芸術を直接鑑賞している人ほど健康状態が良好である傾向があります

文化芸術を直接鑑賞したかどうかで健康状態を比較したところ、鑑賞した人の方が“健康である”（「とても健康である」「まあ健康である」の合計）の割合が92.9%（鑑賞しなかったが、できなかったが78.8%、鑑賞しなかった、どれもしたいと思わないが86.6%）と高くなっています。（問6）

## ■② 文化芸術の鑑賞・体験について

## 過去1年間で直接、文化施設などで鑑賞した人は約7割です

過去1年間で直接、文化施設などで鑑賞した人は65.6%（前回75.0%）となっており、鑑賞した人の割合よりも各分野の鑑賞率が低下していることから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1人あたりの鑑賞機会が少なくなっていることがうかがえます。年代別にみると、70歳代で「鑑賞しなかったが、できなかった」が20%と最も多くなっています。（問8（1）-1）

## 今後、音楽や文化財等、美術を、直接、鑑賞・体験したいというニーズは根強いです

今後、鑑賞・体験したい分野は、“直接、文化施設などで”では、「音楽」（54.2%）が最も多く、「文化財等」（49.9%）、「美術」（43.4%）が続きます。また、“テレビやDVD、インターネット等”では、「音楽」（45.8%）が最も多く、「メディア芸術」（40.7%）、「芸能」（23.3%）が続きます。鑑賞・体験手法別に比較してみると、「メディア芸術」以外の分野では“直接、文化施設などで”が高く、特に「文化財等」「美術」では30ポイント程度の差があり、直接、鑑賞・体験するニーズは根強いことがうかがえます。（問8（2）-1、問8（2）-2）

## 市内で行われる文化的イベントへの参加率は約5割です

西東京市民文化祭や西東京市民まつり等のイベントに行ったり、参加したことがある人は45.3%（前回55.1%）となっており、市内イベントへの参加についても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がでていることがうかがえます。居住年数別でみると、居住年数が長い人ほど参加率が高くなっています。また、18歳未満の子どもの有無別でみると、「いる」が56.8%、「いない」40.1%となっており、18歳未満の子どものいる方が、市内のイベントへの参加が多いことがうかがえます。（問9）

## 市内で行われる文化的イベントに参加しなかった理由は「知らなかった」が約4割です

市内で行われる文化的イベントに参加しなかった理由は、「知らなかった」が44.1%（前回30.6%）、「関心がなかった」が19.2%（前回27.9%）、「きっかけがない」が18.8%（前回21.5%）となっています。年代別でみると、“20歳代”、“30歳代”では「知らなかった」が64%となっています。（問9-2）

## 文化的な鑑賞・体験を促す情報発信手段としては、紙媒体が主流ですが、年代によりデジタル媒体を重視する意見がみられます

今以上に市内で文化的な鑑賞・体験するようになるために市が行うべき情報発信については、「広報紙」が53.9%、「市内各所にポスター」が38.9%となっています。一方、年代別でみると、“20歳代”では「フェイスブック等のSNS」が54.3%、“30歳代”では41.5%となっています。（問10）

## 主な調査結果

## ■③ 文化的な活動について

## 継続的な文化的活動をしている人は約2割です

継続的な文化的活動をしている人は17.2%（前回17.5%）です。「過去に活動していたが、今はやっていない」が18.2%と同程度となっており、今後活動する可能性がある層も一定程度認められます。（問12）

## より充実した文化活動への課題は、施設や場、資金、仲間です

より充実した文化活動を実施するための課題については、「練習する施設の確保」（32.0%）、「資金不足」「時間不足」（25.0%）、「場・機会の確保」（22.0%）、「仲間の確保」（21.0%）が上位を占めます。（問12-2）

## ■④ 回答者の子どもの文化芸術体験について

## 子どもの文化芸術体験は、映画・アニメ鑑賞、習い事が主です

学校以外での過去1年間の文化的な活動は、「映画・アニメ鑑賞」（37.9%）、「音楽の習い事」「舞踊、ダンス、演劇等の習い事」（18.9%）であり、「していない」は21.2%（前回20.0%）です。（問15-1）

## ■⑤ 西東京市の文化的な環境について

## 市の文化的な環境を今より充実するために、施設や事業の充実とともに、文化芸術に親しむ機会や情報の充実が重要視されます

市の文化的な環境を今より充実させるために重要なことについて、市の文化的な環境に満足している・いない別でみると、“満足していない”層では、「文化施設の充実」（50.0%）、「文化事業の充実」（31.3%）、「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」「活動ができる施設や情報の充実」（29.7%）が上位に挙げられています。（問17）

## ■⑥ 西東京市のまちのイメージについて

## 西東京市が文化芸術に親しみやすいまちというイメージは、十分に浸透していない状況です

西東京市が文化芸術に親しみやすいまちかどうかについては、肯定的評価が25.0%、否定的評価が70.1%となっています。年代別でみると、“20歳代”“30歳代”では肯定的評価が30%を超えており、若い世代の方が高い傾向が見られます。（問19）

## 文化芸術振興による効果として、心の豊かさや創造性の伸長、コミュニティの活性化、生きる楽しみの習得が挙げられています

文化芸術振興による地域や市民への効果については、「子どもの心の豊かさや創造性の伸長」が44.4%（前回32.8%）、「感動や充実感がもたらす心の健康」が40.3%（前回37.0%）、「地域コミュニティの活性化」が40.0%（前回37.2%）、「生きる楽しみを得られる」が37.7%（前回31.2%）と上位に挙げられ前回よりも高くなっています。一方、「共生社会の実現」（12.3%）は、前回（22.7%）を下回っています。（問20）

## 文化芸術に親しむことが市への愛着向上に有効と感じる層が約8割です

文化芸術に親しむことが市への愛着を高めることに有効と感じる層が77.3%を占めます。（問21）また、文化芸術活動を通して市への愛着を高めるために必要なことについて、「市内のイベントに参加」（38.1%）、「文化芸術活動ができる施設が充実」（37.9%）、「地域の歴史や伝統文化に触れる」（28.8%）が上位に挙げられています。（問21-1）

## 調査の概要

## ■調査対象

市内小学校（5年生）、中学校（2年生）及び高等学校（2年生）の児童・生徒  
（各学校1クラスずつ実施、各学校にて該当クラスを選定）

## ■実施期間

令和4年10月14日（金）～11月4日（金）

## ■調査項目

- ① 回答者自身と文化芸術に対する考えについて
- ② 文化芸術の鑑賞・体験について
- ③ 文化芸術の活動について
- ④ 西東京市の文化芸術について

## ■回収状況

配付数	回答数	回収率
1,013件	1,013件	100%

## 主な調査結果

## ■① 回答者自身と文化芸術に対する考えについて

## 文化芸術の鑑賞・体験が好きな層が約8割を占めます

文化芸術を観たり、聴いたり、創作することは好きかについては、肯定層が77.6%、否定層が21.9%となっています。（問2）

## 大人になってからも文化芸術を楽しみたいと思う層が約7割を占めます

大人になってからも文化芸術を楽しみたいと思うかについては、肯定層が65.2%、否定層が17.1%、わからない層が16.9%となっています。（問3）

## 人々にとって文化芸術は大切なものだと思う層が9割を超えています

人々にとって文化芸術は大切なものだと思うかについては、肯定層が91.3%、否定層が7.7%となっています。（問4）

## 文化芸術の直接鑑賞経験や鑑賞意向のある層の方が、達成感を得た経験、チャレンジ志向、自己肯定感が高くなっています

「①ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」「②難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「③自分には、よいところがあると思う」について、文化芸術を直接鑑賞経験しているか否かで比較したところ、「（直接、文化施設などで）鑑賞した」（①95.2%、②70.7%、③74.5%）と「しなかった」（①96.7%、②74.2%、③79.0%）の層の方が、「しなかった、どれもしたいと思わない」（①86.8%、②50.6%、③67.1%）層よりも、全ての項目について肯定的な回答割合が高くなっています。（問6）

## ■② 文化芸術の鑑賞・体験について

## 過去1年間で直接、文化施設などで鑑賞した人は6割です

過去1年間で直接、文化施設などで鑑賞した子どもは60.0%となっており、市民を対象としたアンケート調査での鑑賞した人（65.6%）と比較すると、5.6ポイント低くなっています。（問7（1）-1）

## 今後、鑑賞・体験したいと思う分野は「メディア芸術」です

今後、鑑賞・体験したいと思う分野は、“直接、文化施設などで”“テレビやDVD、インターネット等”ともに、「メディア芸術」（36.7%、36.6%）が最も多くなっており、市民を対象としたアンケート調査（「音楽」が最多）とは異なる結果となっています。（問7（2）-1、問7（2）-2）

## 分野により鑑賞・体験手法に差異があり、特に「文化財等」「演劇」「美術」では「直接、文化施設などで」の割合が高くなっています

今後、鑑賞・体験したいと思う分野について、鑑賞・体験手法別で比較してみると、「メディア芸術」「音楽」では“直接、文化施設などで”（36.7%、34.7%）と“テレビやDVD、インターネット等”（36.6%、35.8%）による差が殆どない一方、「文化財等」「演劇」「美術」では“直接、文化施設などで”（30.7%、28.5%、24.5%）の方が“テレビやDVD、インターネット等”（15.5%、17.2%、17.6%）よりも意向率が高くなっています。（問7（2）-1、問7（2）-2）

## 直接鑑賞している人の約7割が「親・祖父母」と鑑賞しています

過去1年間において「直接、文化施設などで」文化芸術の鑑賞・体験がある人を対象に、誰と観たり、聴いたりしたかについて「親・祖父母」が66.3%と最も多く、次いで「友人や知人」が42.1%、「兄弟姉妹」が36.8%となっています。

学校区分別でみると、「親・祖父母」について「小学校」が76.2%、「中学校」が65.4%、「高校」が30.5%と年齢が高くなるにつれて低くなっています。（問7-2）

## 主な調査結果

## ■③ 文化芸術の活動について

## 文化芸術に関する活動を「行っている」は約4割です

文化芸術に関する活動を行っているかについては、「行っている」が43.6%、「以前、行っていたが、今はしていない」が9.0%、「活動したことがない」が44.1%となっています。（問9）

## 文化芸術に関する活動を始めるきっかけ、理由は「興味があった」とともに「家族にすすめられた」「友人にさそわれた」が上位に挙げられています

文化芸術に関する活動を始めるきっかけ、理由については、「もともと興味があったことだから」が61.5%と最も多く、次いで「家族にすすめられたから」が23.3%、「友人に誘われたから」が17.9%となっています。（問9-1）

## ■④ 西東京市の文化芸術について

## 西東京市は文化芸術を楽しむことができるまちだと思える層が約6割を占めます

西東京市は文化芸術を楽しむことができるまちだと思えるかについては、肯定層が55.2%、否定層が42.4%となっており、肯定層の割合は市民を対象としたアンケート調査での割合（25.0%）と比較すると、30.2ポイント高くなっています。

学校区分別でみると、「小学校」では肯定層が63.5%の一方、「中学校」では51.1%、「高校」では35.3%となっており、年齢が高くなるにつれて肯定層が低くなっています。（問11）

## 市内で行われる文化的イベントへの参加率は約5割です

西東京市民文化祭や西東京市民まつり等のイベントに行ったり、参加したことがある子どもは54.2%となっており、市民を対象としたアンケート調査での参加率（45.3%）と比較すると、8.9ポイント高くなっています。（問12）

調査の概要

■調査対象  
市内の文化芸術に関連する活動団体等

【文化施設】  
① 保谷こもれびホール指定管理者

【外国人・障害者・高齢者の文化活動関連】  
②NPO 法人西東京市多文化共生センター  
③社会福祉法人さくらの園  
④西東京高齢者クラブ連合会

【子どもの文化活動関連】  
⑤田無第四中学及び保谷高等学校の  
 図工、美術、音楽等に関わる専任  
 教員や文化系部活動の顧問等  
⑥田無第四中学及び保谷高等学校の  
 文化系部活動に所属する生徒  
⑦市民ボランティア(アートみーる)

【市内の活動団体】  
⑧一般社団法人西東京市文化芸術振  
 興会  
⑨西東京市民文化祭実行委員会  
⑩伝統文化等継承事業補助金交付団体  
 ・西東京けやきの会  
 ・田無ばやし保存会

【まちづくり団体】  
⑪一般社団法人まちにわひばりが丘

■実施期間  
令和4年10月19日(水)～  
11月22日(火)

※「ヒアリングの主な結果」の①～⑪は、  
どの団体の意見かを表しています。

ヒアリングの主な調査結果

- （１）鑑賞・体験について
  - ◆市内の文化芸術の拠点として幅広い世代に楽しんでもらう機会を提供したい。①
  - ◆体験から活動につながる例もあり、気軽に参加できる体験の機会を増やしたい。⑨
  - ◆西東京市民文化祭は市民の文化芸術活動団体が多い西東京市の特徴を捉えた機会となっている。⑨
  - ◆西東京ペデライブ、西東京百姿フォトコンテスト、子ども文化芸術フェアあっとアート体験など新しい取組を実施しているほか、新たな企画も計画している。⑧
- （２）子どもの文化芸術活動について
  - ◆文化系部活動に所属している子ども達を中心に、文化芸術に関心を持ち積極的に活動しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は発表などの機会が少ない。⑤
  - ◆西東京市の自然の豊かさや周辺の資源、地域とのつながりを活かした活動や体験を実施していきたい。⑤
  - ◆次世代の育成や他の世代を巻き込んでいくためにも子どもを中心とした取組は効果的である。①⑦⑩
  - ◆市内を始め、近隣市で様々な交流や参加の機会がある。⑥
  - ◆多くの子ども達に文化芸術の楽しさに触れてもらうためにも力を入れていくべきである。①⑦
- （３）新型コロナウイルス感染症拡大の影響について
  - ◆高齢者などは感染のリスクから活動が難しい状況もあり、活動者だけでなく指導者も含めて、活動を継続・再開させていくことが課題である。④⑨⑩
  - ◆対面で実施することを大事にしているため、オンラインは必要最小限に活用する。①⑦
  - ◆オンラインと対面を組み合わせた取組は面白いと思う。⑦
  - ◆会場まで来ることが難しい方にも見てもらう手段として、今後もオンライン配信を活用したい。③⑧⑨
- （４）情報発信や事業への参加を促す工夫などについて
  - ◆市内の文化芸術に関わるイベントや事業を集約し、総合的に発信できる情報媒体があるとよい。①③⑧
  - ◆効果的な発信方法を活用していくことで、市民に広く文化芸術情報を知ってもらうとともに、関わる市民も増やしたい。⑧⑨⑪
  - ◆西東京市民文化祭などの活動に参加していない市民にも市の文化芸術を知ってもらえるよう「見える化」の取組が必要である。⑧⑨
  - ◆子どもから働き世代、高齢者などの様々な世代に参加してもらうために、イベントを通してさまざまな仕掛けや工夫を取り入れている。⑪
  - ◆イベントがあること自体を知らない子どもがいる。⑥
- （５）文化施設について
  - ◆保谷こもれびホールは市民団体の発表の場としては適度な規模だが、20万人以上の自治体としてふさわしい規模のホールがあると地域の文化芸術の質が高まるのではないかと。①⑤⑧
  - ◆市内の活動団体が多くある中、練習場所が不足している。⑧⑨
  - ◆美術作品等を展示するスペースがあるとよい。⑤⑦⑧
- （６）人材確保や育成について
  - ◆活動団体の活動者数の減少や高齢化が課題となっている。⑧⑨⑩
  - ◆地域の人的資源の確保・活用と文化芸術の取組を推進するため、活動機会を求めるアーティストと出演者のマッチングや関係構築に取り組んでいる。①⑪
  - ◆文化芸術活動を行う個人や団体が交流や連携できる場を設け、交流や連携が活性化している。②⑧⑪
  - ◆人材育成や活動の継続のため、指導者を確保することも必要である。⑩
  - ◆次世代の人材育成としては、子どもの頃に活動し、仕事などで活動が難しい時期や離れる時期があっても、再度活動を再開できるようにするとよい。①⑩
  - ◆大人になっても文化芸術活動を続けたい。⑥
- （７）文化資源の活用について
  - ◆市内のパブリックアート、行政や個人が所有している作品や資料を収集・活用することで、鑑賞機会を増やすことができる。⑦
  - ◆市内の文化資源をホームページ上で公開したり、イベントで周知することで市民の認知度を高めていくことも必要である。⑦⑩
- （８）共生社会について
  - ◆市民が障害者アートに触れることで、障害の持つ方の個性を多角的な視点で捉えることにつながる。③
  - ◆文化芸術を通して、障害を持つ方とそうでない方との接点を持ちやすくなる。③
  - ◆市内在住の外国人との交流は、多様な文化に触れる機会となっているが、さらに積極的に取り組めると良い。②
- （９）他分野連携について
  - ◆教育やスポーツなどの他分野との連携や文化芸術の関係団体・施設とのより一層の交流によって、市民が文化芸術に親しむきっかけづくりの拡充につながっている。①⑩
  - ◆子ども達は学校生活や部活動を通して、福祉施設などでのボランティア活動やポスター制作を通じて他分野と連携して社会に発信したい。⑤⑥
- （１０）文化芸術に親しむことによる効果について
  - ◆文化芸術と地域課題の解決とをどのようにつなげていくかが重要である。⑦
  - ◆日々の文化芸術活動やその成果を発表する機会があることにより、達成感の獲得や生きがいを持つこと、心身の健康等につながっており、楽しみややりがいを感じながら活動を継続させていくことが重要である。④
  - ◆活動の楽しさだけでなく、心の豊かさや仲間づくり、何かをやり遂げる達成感などの様々な成長につながっている。⑥

ワークショップの概要

■対象：文化系部活動の部長等  
・田無第四中学校 15人  
・保谷高等学校 13人

■実施時期  
・令和4年11月7日(月) 田無第四中学校  
・令和4年11月17日(木) 保谷高等学校

ワークショップで出た意見のポイント

- ◆自然が豊かで利便性もある西東京市の魅力を知ることができるように、西東京市の地域資源を活かした文化芸術に親しむ取り組みを充実する。
- ◆若い世代の目に留まるような視覚に訴える情報発信を行う。
- ◆文化芸術に対する様々な興味関心を持つ人をより多く集めることが出来るように、単一分野のイベントではなく、美術や音楽など複数の分野を組み合わせたイベントを実施する。

## ◆◇◆調査結果からわかる現状と課題のまとめ◆◇◆

### ① 新型コロナウイルス感染症の影響による文化芸術に親しむ機会の減少

**新型コロナウイルス感染症の影響により、鑑賞や活動など文化芸術に親しむ機会が減少しています**

市民も子どもも、過去1年間で直接、文化施設などで鑑賞した人の割合や西東京市民文化祭や西東京市民まつり等のイベントへの参加した人の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響前と比較して、減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響による各種イベントの延期・中止とともに、参加者側の行動抑制等により、文化芸術に親しむ機会の減少が懸念されます。

**活動の継続により人材やノウハウを維持していくことが必要です**

市内で文化芸術活動を行う団体等へのヒアリング調査では、「高齢者は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクから、活動を控える傾向がある」「活動団体の活動者数の減少」が指摘されています。

文化系部活動に所属している子ども達も、発表や交流などの活動で得られる様々な体験が得にくい状況にあるということです。

継続的な活動が文化芸術を親しむ人を減らさないこと、人から人へ活動のノウハウを継承していくことにもつながるため、ウィズコロナ、アフターコロナにおいても、文化芸術活動を継続するための工夫や新たな活動スタイルの構築（オンラインの有効活用を含む）が、喫緊の課題となっています。

### ④ 他分野との連携の更なる推進

**活動している人同士の連携や、スポーツ、教育、福祉分野等との連携により、交流拡大や新しい取組を推進していくことが必要です**

市内で文化芸術活動を行う団体等へのヒアリング調査では、「教育やスポーツなどの他分野との連携や文化芸術の関係団体・施設とのより一層の交流によって、市民が文化芸術に親しむきっかけづくりの拡充につながっている」とその効果を認める声があります。

文化芸術という同じ分野で活動する人同士の交流促進とともに、他分野の主体や団体との協働・連携を通じて、従来とは異なる相乗効果を創出することが期待されています。

**文化芸術を通して、障害者や外国人などと交流しやすい機会が作られています**

市内で文化芸術活動を行う団体等へのヒアリング調査では、「文化芸術を通して障害を持つ方とそうでない方との接点を持ちやすい」「市内在住の外国人との交流は、多様な文化に触れる機会となっている」など、文化芸術がさまざまな人との交流をサポートしていることが分かります。

文化芸術を切り口とした他分野連携の素地は十分にあるという地域特性を活かした施策・事業展開が求められています。

### ② より多くの子ども達が参加できる体験・鑑賞機会の充実

**子ども達の4人に3人が文化芸術を好きだと回答しており、半数以上が大人になっても楽しみたいと考えています**

市内の小学5年生、中学2年生、高校2年生の4人に3人が、文化芸術の鑑賞・体験を好きと回答するとともに、半数以上が大人になってからも文化芸術を楽しみたいと思うと回答しています。

**文化芸術による子どもの心の豊かさや創造性の伸長が期待されています**

市民を対象としたアンケート調査では、文化芸術振興による地域や市民への効果について、「子どもの心の豊かさや創造性の伸長」が最も期待されています。また、子どもを対象としたアンケート調査では、文化芸術の直接鑑賞経験や鑑賞意向のある子どもの方が、ない子どもよりも達成感を得た経験、チャレンジ志向、自己肯定感が高くなっています。

**文化芸術による地域への愛着の醸成が期待されています**

文化芸術に親しむことが市への愛着を高めることに有効と感じる市民が多くなっています。また、市内で文化芸術活動を行う団体等へのヒアリング調査やワークショップでは、「西東京市の自然の豊かさや周辺の資源、地域とのつながりを活かした活動や体験の実施」「自然が豊かで利便性もある西東京市の魅力を知ることができる地域資源の活用」など、西東京市の良さや魅力を活用した文化芸術の取組が期待されています。

### ⑤ 文化芸術を支える人材の確保と育成

**文化芸術を支える人材が育ち、地域で活躍していけるように、活動の見える化が必要です**

市内で文化芸術活動を行う団体等へのヒアリング調査では、「西東京市民文化祭などの活動に参加していない市民にも市の文化芸術を知ってもらう『見える化』の取組が必要」と指摘されています。

また、単発での取組ではなく、様々なものを組み合わせることにより、活動に関わる人だけではなく、参加したい人も増やすための方策が求められています。

**文化芸術活動を支える環境の整備と次世代育成が求められています**

「市内の活動団体の練習場所不足」「美術作品等を展示するスペースや市民が楽しめる場所」等、鑑賞する人、活動する人の関心や活動の気運を高めるための環境整備が求められています。

また、「文化事業の充実」「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」「活動ができる施設や情報の充実」等により、次世代の文化芸術活動を支えていく人づくりが期待されています。

### ③ より多くの市民に届く効果的な情報発信

**より多くの市民に地域の文化芸術の取組を周知するため、情報の集約と効果的な発信が必要です**

市民の約8割が、文化芸術の鑑賞・体験や活動に関心があると回答していますが、市内で行われる文化的イベントに参加しなかった理由として、「知らなかった」との回答が4割を超えており、地域の文化芸術に関する情報が、市民に対して十分に到達していない現状が浮き彫りとなっています。

今後、市民の文化芸術に対する知的好奇心を満たすような情報を、各世代にしっかりと伝達していくことが求められています。

**紙媒体とともに、デジタル媒体の効果的活用が求められます**

文化芸術をより鑑賞・体験するようになるために市が行うべき情報発信手段として、今後も「広報紙」「市内各所にポスター」が主流となる一方、「20歳代」「30歳代」等、比較的若い層への情報伝達については「フェイスブック等のSNS」等が有効であることが分かります。また、中高生を対象にしたワークショップでは、視覚に訴える写真やイラストを用いた案内など、発信力が重要視されています。

世代ごとに適した有効な手法による情報伝達をしていくことが求められています。

### ⑥ 文化芸術によるまちの活性化や交流の拡大

**約8割の人が文化芸術に親しむことが地域の愛着を高めると考えています**

約8割の市民が、文化芸術に親しむことが市への愛着を高めることに有効と感じています。

また、文化芸術活動を通じて、市への愛着を高めるために必要なこととして、「市内のイベントに参加」「文化芸術活動ができる施設が充実」「地域の歴史や伝統文化に触れる」等が重要視されています。

**まちのなかで文化芸術による賑わいや交流を生み出す取組が期待されています**

市内で文化芸術活動を行う団体等へのヒアリング調査では、「市内のパブリックアート、行政や個人が所有している作品や資料を収集・活用することで、鑑賞機会を増やすことができる」と提案されています。

また、文化施設に限らず、まちなかのスペースなどを活用した活動を展開することにより、新たな出会いや交流の機会が生まれています。市内にある文化資源等を有効活用することで、まちの活性化や賑わい創出を図ることが期待されています。